

令和4年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立三池工業高等学校(定時制課程)

自己評価					学校関係者評価				
学校運営計画(4月)				評価(総合)		自己評価は			
学校運営方針		「地域とともある学校」～地域産業の発展に貢献できる工業人の育成をめざして～ 一般教養ならびに工業に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得を重視し、社会の変化に対応できる能力の育成を目指す。一人ひとりの個性を大切にするとともに、社会的自立の基礎となる学力、体力、豊かな心を培う。また、伝統と文化を尊重し、「知恩感謝」の念を持ち、我が国と郷土を愛する人材の育成を図る。					A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である		
昨年度の成果と課題		年度重点目標		具体的目標					
【成果】 ・クラス経営の指導体制充実による出席状況の改善 ・授業規律の確立による学習意欲の向上 ・学校行事の実施形態の工夫による生徒会活動の活性化 ・第二種電気工事士、危険物取扱者乙種等の試験合格による資格取得の意欲向上 ・組織的な生徒指導による中途退学者の減少 【課題】 ・新学習指導要領に対応した教科等横断的な授業の取り組みと3観点評価における指導と評価の一体化 ・ICTを活用した授業改善の推進 ・資格取得の指導体制の構築と「ものづくり」教育の充実 ・キャリアパスポートを活用しキャリア教育の定着 ・規範意識向上のため、生徒指導力の向上と組織的対応の充実 ・生徒の多様性にに応じた指導・支援のための教育相談の充実 ・定時制の魅力が伝わるような広報活動の充実		1 キャリア教育の充実		地域との連携を強化し、「生徒一人ひとりの多様な進路実現」に向けたカリキュラムを展開することで、就職だけでなく公務員や大学進学等への進路指導体制の充実を図る。多様な生徒の可能性を伸ばす指導を充実させることで、生徒一人ひとりの多様な進路に応じた教育を行う。					
		2 ものづくりを中心とした「三工ブランド化」の推進		「ものづくり」とおした地域貢献を推進するとともに、「三工ならではの」活動を行う。地域や社会の健全で持続的な発展を担う人材を育成するため、資格取得にチャレンジする。					
		3 授業技術を高め、「人を育てる授業」を展開する		「銀ほめ福岡メソッド」の実践を推進し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた「アクティブラーニング」を行い、探求心の向上を行う。最先端科学技術の進展・グローバル化・産業構造変化等にもとない、必要とされる専門知識・技術も変化及び高度化しているため、教師自らが自己研鑽に励み、ICTを用いた授業づくり、実践学習を通じた学習意欲の向上と維持に努める。生徒に「自学努力」、「自学自習」の精神を育成することで学ぶ意欲、確かな学力の育成を図る。					
		4 ICTを活用した新たな学習スタイルの確立を図る		生徒一人1台端末及び通信ネットワーク等のICT環境を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることで、生徒一人一人の資質・能力を確実に育成する教育活動の実現を目指す。					
		5 修学支援を迅速に進める		転退学を防ぐために「チーム三工」として関係機関と連携し、遅刻や欠席を繰り返す生徒の適切な指導法を協議するとともに、生徒情報を職員会議で適宜報告し組織的対応につなげる。また、「知恩感謝」の念を持ち、いじめや暴力のない安心安全な学校づくりに努める。なお、就学と就業の両立を目指して、学校・家庭・職場間の連携を強化する。					
		6 組織的な道徳教育の展開		道徳実践力を高めるため、人としての在り方・生き方を身につける道徳教育を展開する。「凡事徹底」を図り、当たり前のことを当たり前にやるのではなく、当たり前のことを人には真似できないほど一生懸命やる態度を涵養する。					
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見			
教務部	社会の変化に対応できる資質・能力の育成	観点別学習評価の実施により生徒の学習改善を促進する。 授業のアクティブラーニング化やICTの活用を推進する。 教科等横断的な授業デザインや手法について研究・実践する。							
	出席・成績不振による原級留置や中途退学の防止	生徒の学力と学習状況を把握し、基礎学力の定着を図る。 統合型校務支援システムにより教員間で情報を共有する。 人権尊重の視点に立った教育活動を展開する。							
生徒指導部	生徒の多様性にに応じた指導・支援	全職員による毎週の生徒情報交流会や、外部から得られた情報を共有し、職員の生徒理解能力の向上と共通意識を図る。 相談ボックスを設置して生徒に周知を図り、毎日確認を行う。 定期的に規定や校則について見直しや改善を図り、生徒の実態に即した取り組みをする。							
	安心・安全な学校づくりのための取り組み	全職員が学校いじめ防止基本方針を理解し、いじめの未然防止・早期発見のための組織的な対応をする。 学校生活アンケート等を毎月実施し、集計後教育相談委員会を開き対応する。 学校教育活動全体を通じて生徒を育てる意識を職員間に根付かせる。							
進路指導部	キャリア教育の充実と就労支援	全生徒にキャリアパスポートを記入させ進路指導に活用する。 進路指導教室や工場見学等を通して職業観を育成する。 在校生の就業先の職場を訪問して雇用の継続・拡大を図る。							
	卒業予定者の就職・進学の進路希望の実現	履歴書作成や面接等に関する指導を充実させる。 就職情報提供により早めの志望先決定と内定率向上を図る。 進学情報提供により早めに志望校を決定させて受験指導する。							
保健食育部	生徒一人ひとりの心身を守り、安心安全な学校生活を送れる環境を作る	個々の生徒の課題について、スクールカウンセラー等と連携して支援していく。 登校前にスマートフォンでの健康チェックを行う。 教室等のこまめな換気、消毒を行い感染予防に努める。							
	食育の推進を図り、生徒の偏った栄養摂取、朝食欠食など食生活の乱れ等について改善を促す	学校給食を通して、望ましい生活習慣を身に付けさせていく。 生徒のリクエストメニュー活動を実施し、食への関心を高める。 三工定農園で作物を育て、収穫行うことで自然の恵み・勤労の大切さを学ぶ。							
企画情報部 <small>(教育情報推進課含む)</small>	本校の教育活動について、保護者や地域へ発信し、積極的な広報活動を行う	保護者配布用の学校新聞を発行する。 学校ホームページの運用・管理を行う。 進学・学び直し相談会を設け、地域や中学校へ定時制のPRに努める。							
	情報機器の厳重な管理、トラブル対応を円滑に行い、安定した運用ができるよう支援に努める	セキュリティ対策を徹底し情報の安全性を守る。 校内ネットワークやハードウェアトラブルへの対応を行う。 ICTの活用を提案する研修を行い、教職員のスキルアップに努める。							
機械・電気科	安全教育を徹底するとともに、教科指導力の向上を図る	5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の行動を徹底させる。 換気の徹底や消毒など感染予防を徹底する。 学習内容の幅を幅を広げ、教科指導の向上に努める。							
	ICTの活用やアクティブラーニングの推進を図り、客観的な評価材料が得られよう、教科指導を実践する	効果的なICT活用の実践を積み、職員間で共有する。 実技の学習内容からの観点別評価の手法を共有化する。 授業での実践例を互いに学びあい、指導力向上に努める。							
自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策					評価項目以外のものに関する意見				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>									